

児童生徒が読書の広がりや楽しさを実感することのできる読書単元の工夫
—国語科の「読むこと」の学習を生かした活動を通して—

教育情報推進係

柵木みどり（小学校教諭）

中畑 真美（中学校教諭）

I テーマ設定の理由

これまでも授業の中で様々な読書指導を行ってきたが、すべての児童生徒が本を手にとって読むまでには至らなかった。それは、本来密接に結び付いているはずの「国語の授業」と「読書」を十分関連させた指導ができていなかったことが、原因の一つではないかと考える。戦争教材の学習後に戦争をテーマにした本を紹介するなど、教材の内容と関連させた読書指導はこれまでも行ってきた。しかし、人物の心情を読み取るなどの学習内容との関連は弱かった。そのことが児童生徒にとって、授業で文章を読むことと自分で本を読むことは関係ないものと思わせ、読んだことがないジャンルの本に手を伸ばすことを、妨げてきたのではないかと考える。

児童生徒の豊かな読書生活をはぐくむためには、様々な本のよさを理解したり心に深く残る本と出会ったりすることが大切である。そのためには、児童生徒に読書の広がりや楽しさを実感させることがまず必要となる。そこで本研究では、単にストーリーを追うだけではなく、「読むこと」の学習で身に付けた力を読書に生かしていけるような学習課題を工夫していくこととした。それを新たな読書単元として、これまでの読書紹介の代わりに取り入れていく。また、この学習に学校図書館を有効に活用していく。こうした読書単元を行っていくことで、児童生徒は自己の読書の広がりや楽しさを実感することができるようになると考え、テーマを設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

国語科において、「読むこと」の学習を生かした活動を取り入れた読書単元の工夫を行うことで、児童生徒が読書の広がりや楽しさを実感することができるようになることを、実践を通して明らかにする。

2 課題解決策

(1) 学んだことを生かした読書指導の工夫

授業を通して身に付けたことを生かして本を選んだり、読書の際の視点にしたりできるような学習活動を工夫する。具体的には、物語の中の人物像をとらえる学習後に、様々な本から登場人物を集めた「キャラクター事典」を作成したり、社会と人間とのかかわりをとらえる学習後に、作者や作品の時代背景を調べて「作者との架空対談集」を作成したりする。これにより、国語科の「読むこと」の学習で身に付けたことが自分の読書にも活用できることや、自己の読書の広がりや楽しさを実感させることができると考える。

(2) 学校図書館の利用

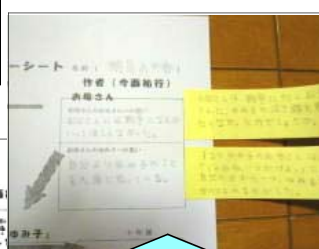
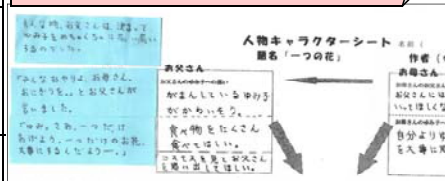
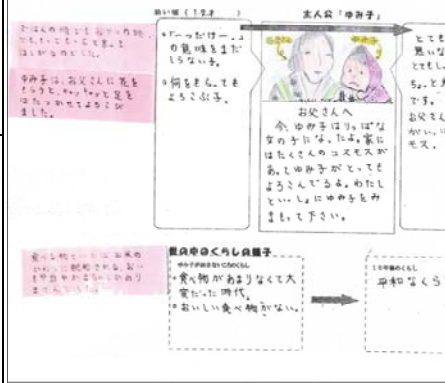


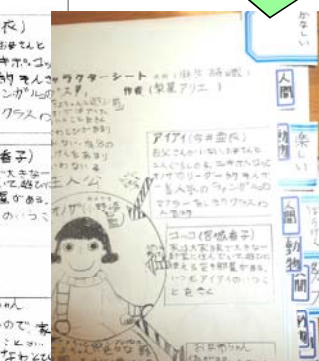
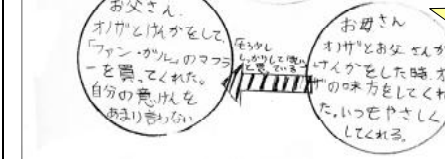
身に付けたことを生かして本を選んだり、読書の際の視点にしたりできるような学習活動を、学校図書館にある本を利用して行う。教師の意図で自由に配架を変えられるのが、学校図書館のよさの一つである。授業で学校図書館を利用した後、図書配架を意図的に変えるなどして、児童生徒の自発的な読書を促していく。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

1 学んだことを生かした読書指導の工夫

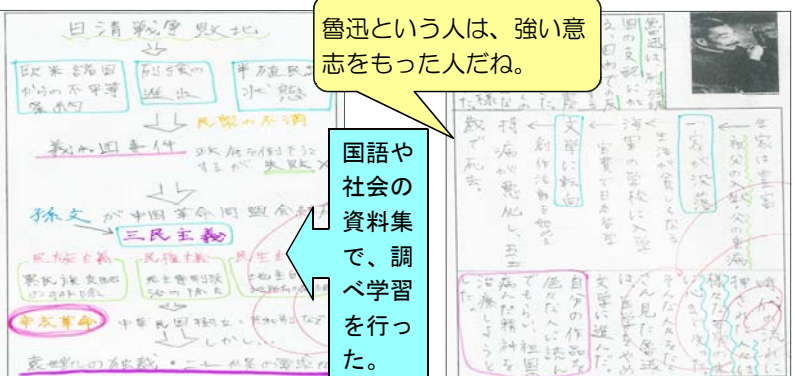
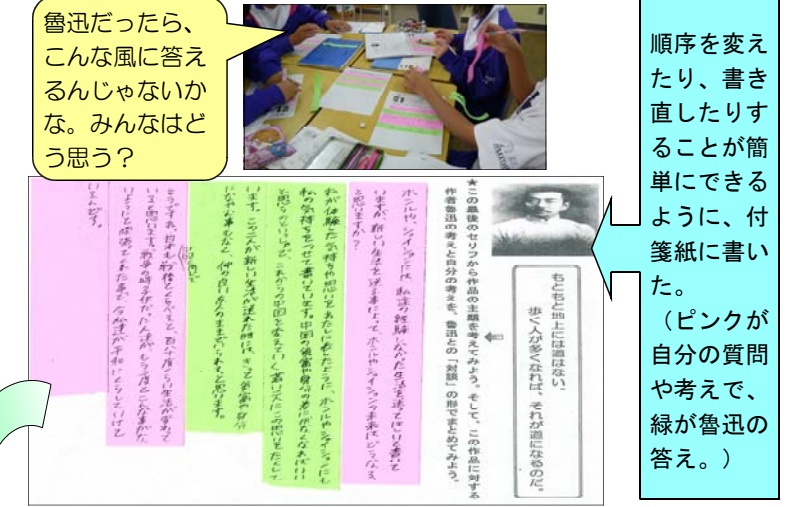
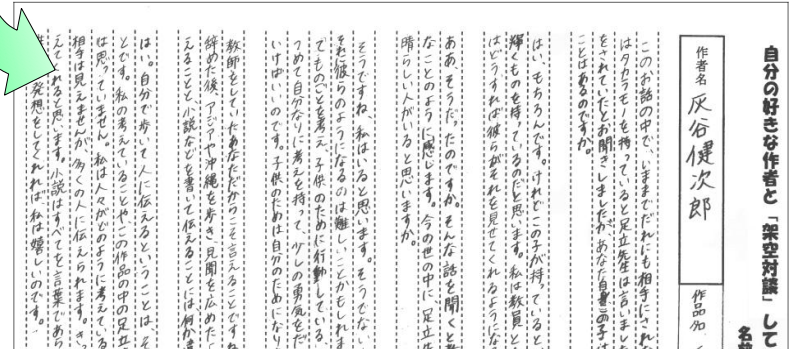
(1) 小学校における実践 (小学校4年)

4年生国語科「一つの花」を教材として、主人公の人物像を叙述から読み取り想像することを学習した後、この学習で身に付けた力を読書指導に生かすために、学校図書館で自分が選んだ本の「キャラクターシート」を作成し、冊子「キャラクター事典」にして交流させた。そして、これまでの読書とは違い、「主人公の成長」という読みの視点をもって文章を読み深める楽しさを実感させるようにした。

時間	主な学習活動	児童生徒の反応・様子
1	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や時代背景を想像して読む。 (一人一人に対する感想を書かせることで登場人物の人物像や時代背景を想像させる。) 	<p>時代背景とゆみ子が成長した姿をとらえさせてから、幼い頃のゆみ子の様子や母親や父親の思いを考えた。</p> 
2	<ul style="list-style-type: none"> ゆみ子の人物像を叙述から読み取る。 (10年後のゆみ子の人物像を本文から考えさせる。) 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 「キャラクターシート」に記入しながらゆみ子の人物像を想像する。 (各場面の登場人物の心情を追いながら、ゆみ子の人物像を考えさせる。) 	<p>ゆみ子への母親の思いをシートに書き、そのことが分かる本文を付箋紙に書いて貼った。</p> 
4		
5	<ul style="list-style-type: none"> 「キャラクターシート」を読み返して登場人物の人物像を考える。 (初発の感想と読み比べて、キャラクターシートを作成したことで読みが深まったことに気付かせる。) 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ本の主人公の「キャラクター事典」を作る。 (本を読む観点として、主人公の成長に着目させて、読ませる。「一つの花」で学習したキャラクターシート作りを生かし、自分で読んだ本の主人公の成長に焦点を当てて作成させる。) 	<p>キャラクターシート</p> 
8		<p>「キャラクター事典」につけた目次</p> 
9	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに「キャラクター事典」に目次を付け、交流し合う。 (目次を作ることをあらかじめ知らせておき、話合いの視点をもたせて友達のキャラクターシートを読ませる。) 各グループから1名ずつが集まり、新しいグループを作り、目次の付いた自分たちのキャラクター事典を見せながら、どのように分類したのかを発表し合い、交流する。 	<p>「友達の大切さが分かる本だね。読んでみたいな。」</p> 
10		

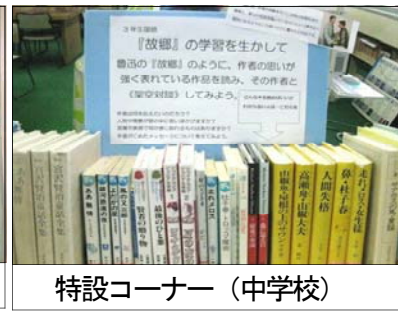
(2) 中学校における実践（中学校3年）

3年生国語科「故郷」を教材として、時代背景や作者の人物像を視点にしながら読み深める学習を行った後、この学習で身に付けた力を生かして「作者との架空対談集」を作成させた。こうした学習を行うことで、生徒自身の読書の幅を広げるようにした。

時間	主な学習活動	児童生徒の反応・様子
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読後、作品の最後に書かれている作者のメッセージに気付く。 	<p>「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」というセリフはどんな意味だろう？ 作者自身の言葉なのかな？</p>
3 5	<ul style="list-style-type: none"> 作者魯迅のメッセージを軸に、そこに込められた魯迅の意図を探ることをねらいとして、物語の読解を行う。 <p>当時の中国の社会状況や魯迅について調べることで、最後のセリフに込められた魯迅の思いに迫った。</p>	 <p>魯迅という人は、強い意志をもった人だね。</p> <p>国語や社会の資料集で、調べ学習を行った。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 各自が見つかった「故郷」の主題を、作者との「対談」の形でまとめる。 <p>まずグループで「質問→作者の答え→答えに対する自分の考え」の見本を作成し、その後個人で続きを考えた。</p>	<p>魯迅だったら、こんな風に答えるんじゃないかな。みんなはどう思う？</p>  <p>順序を変えたり、書き直したりすることが簡単にできるように、付箋紙に書いた。（ピンクが自分の質問や考えで、緑が魯迅の答え。）</p>
7 8	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を利用して、自分の選んだ本を読む。 <p>魯迅との架空対談を振り返り、その時の学習を生かして自分の選んだ作者と架空対談を行った。</p>	 <p>自分の好きな作者と「架空対談」してみよう 名前（ ）</p> <p>作者名 灰谷健次郎 作品名 兎の眼</p>
9 10	<ul style="list-style-type: none"> 「作者との架空対談集」を作成し、完成したものを交流し合う。 	<p>対談にまとめてみると、作者が何を伝えたくてこの作品を書いたのかが、よくわかるね。</p>

2 学校図書館の利用

学校図書館の本を児童生徒が活用できるように特設コーナーを設けた。小学校では、主人公の成長がわかりやすく描かれている物語文を中心に、児童の実態を考慮して絵本や短編物語なども置いた。中学校では、「故郷」と同様に作者のものの見方や考え方が強く表れている本を選んだ。例えば太宰治・芥川龍之介・宮沢賢治・夏目漱石・石垣りん・谷川俊太郎などの作品や海外作品、古典などである。



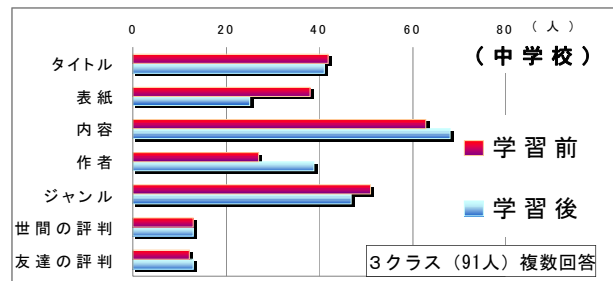
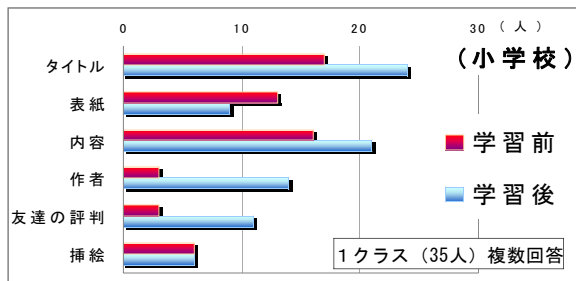
特設コーナー（小学校）

特設コーナー（中学校）

IV 研究の成果と課題

1 成果

小・中学校とも、学習の前後に読書に関するアンケートを行った。その中で、「本を選ぶとき、基準にしたいもの」という質問で、次のような結果が得られた。



小学校では、「内容」や「作者」「友達の評判」などの項目が大きく増えている。「友達の評判」が増加したのは、キャラクター事典を作成し友達同士で交流したことにより、自分も読んでみようとする児童が多くなったからであろう。中学校では「ジャンル」の項目が減少し、代わりに「内容」「作者」が増加した。一方で、小・中学校とも「表紙」の項目が大きく減少している。今まで表紙の華やかさや自分の好きなジャンルで本を選んでいていた児童生徒の目が、作者や内容などに向けられ、選択の範囲を広げられたためであると考えられる。

また、小学校では「字が多い本を読むのが好きになった。」という児童からの声や「漫画しか読まない子だったのに、最近は物語の本を読むようになってうれしい。」という保護者からの声が聞かれるなど、児童の読書に対する態度や読書内容に大きな変化が見られた。中学校でも、「新しい本の読み方を知った」と答えた生徒が9割を超えた。さらに、「作者が何を思いながら何を伝えたくて書いたのかを考えて読めるようになり、前よりも楽しく本が読めるようになった。」「もともと違う本を、そうやって読みたいと思った。」といった感想からも、新たな読書の楽しさを知り、読書に対する関心が高まった様子が伺える。

このように、「主人公の成長」や「作者」など、読みの視点をもって文章を読むという学習を取り入れた読書単元を工夫することによって、児童生徒が読書の広がりや楽しさを実感できるようになることが、実践を通して明らかとなった。

2 課題

読書経験の少ない一部の児童生徒にとって、「一つの花」や「故郷」での学習はおもしろいと感じたものの、自分の読書にすぐに生かすことはやはり難しかったようである。今後は計画的・継続的にこうした読書単元を組み、読書指導を行っていく必要があることを改めて感じた。

また、他の教科の学習とも関連させた特設コーナーを設けるなど、児童生徒が様々なことに興味・関心をもって利用できるような学校図書館となるように工夫をしていきたい。

国語科学習指導案

平成21年10月20日（火）第3校時
4年2組 指導者 柵木みどり

授業の視点

登場人物の心情を読み取ったことを基に主人公の「キャラクターシート」を作成したことは、主人公の成長を読み取るために有効であったか。

I 目指す言語能力

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。（C読むこと ウ）
- 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読む。（C読むこと カ）

II 単元名

本と友達になろう

「一つの花」 「『キャラクター事典』をつくろう」

III 単元の考察

1 児童の実態

本校では、読書活動の推進の一環として、月に一度市立図書館から移動図書がきて、児童が自由に本を選んで借りている。また、週一度の朝読書、月一度のボランティアの方の読み聞かせも行っている。しかし、児童の読書の現状をみると、手にする本は、ゲームの攻略本や携帯小説や漫画など、その時間をただ楽しく過ごすような遊びの延長としての読書に終わってしまっている傾向が見られる。また、絵本から文字の本へと移行したい中学年になっても絵本を読んでいる児童が目立っている。実際に学級の児童に、読書に関するアンケート調査をしたところ以下の様な結果であった。

質 問	回 答 数
読書は好きですか	好き16名 ふう19名 嫌い0名
最近よく読む本は何ですか	漫画（伝記・歴史等）14名 怪談話7名 かいけつゾロリ6名 小説5名 アニメ小説1名 絵本1名 童話1名
一週間の学校図書館利用回数	毎日8名 2～3回24名 0回4名

以上の結果からは、読書はしているが読む本のジャンルに偏りがあり、内容的にもその時限りの楽しさで終わってしまうような本を好んで読んでいることが改めて分かった。その一つの原因が、授業の読み取りの学習での「読む力」が不足しているために、内容の面白さを味わえずに物語などの長文の読書に抵抗を感じているからではないかと考える。

また、これまでの国語科の学習においても、登場人物の心情や場面を読み取る学習や学校図書館の利用方法等の読書指導を行ってきた。しかし、授業で扱った教材に関連する本を学習後に読んだことがある児童の割合を調べてみると、35人中11名しかいなかった。内訳は「スイミー」（2年）1名、「ちいちゃんのかげおくり」（3年）5名、「白いぼうし」（4年）3名、「三つのお願い」（4年）2名であった。これは、国語科でこれまで行ってきた読書指導が、児童の読書にほとんどつながっていないことを意味している。このような実態から、本来密接な関係で結び付いているはずの国語科の授業と読書に関連させた指導ができていなかったことが原因の一つであると考えられる。そこで、本単元は、文学的文章「一つの花」を読書単元として取り上げ、主人公の人物像を読み取ることで、文章を読み深める面白さを味わわせ、読書の本当の楽しさを実感させたい。

2 教材観

本単元は、文学的文章「一つの花」の学習後に、授業で身に付けた読みの視点を生かして豊かな読書生活につなげていく新たな読書単元として設定する。

「一つの花」は戦争文学であるが、戦争の残酷さや悲惨さは直接的に表現されておらず、その状況下で生活している家族の話である。本文の前半は、戦争中の貧しい暮らしの中、幼い子を抱えている両親の思いや、戦争に出向く父親の子への思い、またそれを気遣う母親の思いなどが描かれている。後半は、10年後に当時幼かった子が明るく少女へと成長した姿が描かれた文章構成になっている。

「一つの花」の登場人物の言動を手がかりに、登場人物それぞれの人物像を考え「キャラクターシート」にまとめることで、文章を深く読み取ることの面白さを味わわせていきたい。次に、この学習で身に付けた力を読書指導に生かすために、学校図書館で自分が選んだ本の「キャラクターシート」を作成し、冊子「キャラクター事典」にして交流し合う。そして、これまでの読書とは違い、「主人公の成長」という読みの視点をもって文章を読み深める面白さを実感させて、豊かな読書生活につなげていきたいと考えている。

3 教材の系統

	「C読むこと」 読書の情報活用に関する指導事項	単元及び教材	具体的な読書指導
1年	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	「大きなかぶ」	世界の民話の本を読んでそれぞれの場면을紙芝居にする。
2年	イ 時間的な順序や事柄の順序など考えながら内容の大体を読むこと。	「海の中の生き物」	時間の流れに沿って段落毎に絵本作りする。
3年	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	「ありの行列」	調べたことに自分の考えを加えて生き物図鑑作成をする。
4年	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	「一つの花」	自分たちで選んで読んだ本を基に「キャラクター事典」を作成する。
5年	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	「千年の釘に挑む」	複数の資料を読み比べて、自分の考えを基に意見文を作成する。
6年	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	「海の命」	人物相関図や優れた表現を紹介する等、本の紹介新聞を作成する。

4 指導方針

- ・「一つの花」という作品を単独の教材として取り扱うのではなく、「一つの花」と「キャラクター事典」とを組み合わせた読書単元として構想する。
- ・「一つの花」では、登場人物の心情を読み深めながら、「キャラクターシート」を作成する。その際、人物像をイメージするために手がかりになった叙述を付箋紙に書き写させてシートに貼ることで、根拠を分かりやすくする。
- ・「キャラクター事典」の作成では、学校図書館に文学作品集などの特設コーナーを設けて、児童が自分で本を選びやすい環境作りをしておく。
- ・自分で選んだ本を読むときに、読みの視点として、主人公がどのように、何をきっかけに成長したのかを登場人物とのかかわりや出来事を基に考えながら読ませて、「キャラクターシート」を作成させる。
- ・全員の「キャラクターシート」を集めて一冊の「人物キャラクター事典」にした後、グループで読み合い、「目次」を付けるために内容を分類させることで、様々な人物像を通した読書の楽しさに気付かせ、読書への興味・関心を一層高めていく。

IV 目標及び評価規準

1 目標

まわりの登場人物とのかかわりから主人公がどのように成長したかを読み取り、登場人物に視点をあてて読書するなど、幅広い読書生活につなげることができる。

2 評価規準

	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に興味をもち、主人公（ゆみ子）が明るい子に成長したわけを追求しようとしている。 ・文学作品に興味をもち、登場人物の人物像を描きながら本を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に興味をもち、主人公（ゆみ子）が明るい子に成長したわけを登場人物とのかかわりを考えながら追求しようとしている。 ・様々な文学作品に興味をもち、登場人物の人物像を描きながら本を読んでいる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像を叙述を基に自分なりに想像することができる。 ・自分で選んだ本の主人公の成長の様子が分かるキャラクターシートを作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像を根拠となるいくつかの叙述を結び付けて想像することができる。 ・自分で選んだ本の主人公の成長の様子や登場人物が成長にどのようにかかわった分かるキャラクターシートを作成することができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について調べ、日常の言語活動に生かすことができる。

V 指導と評価の計画 (全10時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> 本文を通読する。 登場人物一人一人の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争時代と10年後に分かれていることに気付かせる。 一人一人に対する感想を書かせることで登場人物の人物像や時代背景を想像させる。 	<p>【読む】</p> <p>B：文章構成を理解して、登場人物のイメージや時代背景を想像している。</p> <p>A：文章構成を理解して、登場人物一人一人のイメージや時代背景を想像している。(ワークシート・発言)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 10年後のゆみ子の様子を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 10年後のゆみ子の人物像を挙げさせ、そのことが本文のどこから分かるか、考えさせる。 	<p>【読む】</p> <p>B：ゆみ子の人物像を叙述から読み取っている。</p> <p>A：ゆみ子の人物像を叙述から読み取り幼い頃と比較している。(ワークシート・発言)</p>
3	<p>(1の場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆみ子の幼さやお母さんのゆみ子への愛情を本文から読み取る。 <p>(2の場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆみ子への父親の気持ちを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各場面の登場人物の心情を追いながら、ゆみ子が成長するきっかけを考えさせる。 「ゆみ子のはっきり覚えた最初の言葉」や「自分の分から一つゆみ子に分けてくれる」「ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いをする」という表現を手がかりに気付かせる。 	<p>【読む】</p> <p>B：キャラクターシートに記入しながらゆみ子の人物像を想像している。</p> <p>A：キャラクターシートに記入しながら、両親の深い愛情と関連付けながらゆみ子の人物像を想像している。(ワークシート・発言)</p>
4 (本時)	<p>(3の場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆみ子への父親の気持ちやゆみ子をあやす母親の気持ちを想像する。 <p>(4の場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一つの花」に込められたお父さんの気持ちを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 父親にゆみ子の泣き顔を見せないように、ゆみ子をあやす母親の気持ちを考えさせる。 花をもらったゆみ子が喜んでいる姿を見てにっこり笑った場面から、ゆみ子の人物像を考えさせてから、お父さんはどんなことを思って笑ったのか考えさせる。 	

5	<ul style="list-style-type: none"> 作成したキャラクターシートを基に、登場人物一人一人について自分の考えを書く。 感想をグループで読み合う。 「キャラクターシート」を作成して感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想と読み比べて、キャラクターシートを作成したことで読みが深まったことに気付かせる。 グループで感想を読み合うことで登場人物の人物像について見方を広げる。 主人公を中心に人物像を描くことによって深い読み取りができることに気付かせる。 	<p>【読む】 B：登場人物の「キャラクターシート」を作成したことによって、読みが深まったことに気付く。 A：登場人物の「キャラクターシート」を作成したことによって、読みが深まったことに気付き、今後の自分の読書につなげていこうとしている。 (観察・ワークシート)</p>
6 8	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館で本を探し。 本を読む。 「キャラクターシート」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館に特設コーナーを設けて、そこから本を選ばせる。 本を読む観点として、「物語の中で主人公がどんなことをきっかけに、どのように成長したのか」に着目させて、読ませる。 自分で選んだ本について「キャラクターシート」を一人一人が作成して、それを学級で一冊の「キャラクター事典」にまとめさせる。 「一つの花」で学習したキャラクターシート作りを生かし、自分で読んだ本の主人公がどのように成長したのかに焦点をあてて作成させる。 	<p>【読む】 B：自分で選んだ本の主人公の人物像を読み取り、キャラクター事典を作成できる。 A：自分で選んだ本の主人公の人物像を読み取り、人間関係図等を入れてキャラクター事典を作成できる。 (ワークシート)</p>
9 10	<ul style="list-style-type: none"> 冊子にした「キャラクター事典」を読む。 グループ毎にキャラクター事典に目次を付ける。 目次を付けたキャラクター事典を交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 目次を作ることをあらかじめ知らせておき、どのような視点で分類するか考えながら友達のキャラクターシートを読ませる。 どんな分類方法があるかグループで話し合わせ、目次を作らせる。 各グループから1名ずつが集まって、新しいグループを作り、目次の付いた自分たちのキャラクター事典を見せながら、どのように分類したのかを発表し合い、交流させる。 興味をもった本を発表させて読書への意欲を高める。 	<p>【読む】 B：友達の発表を聞いて、読書への意欲が高まる。 A：友達の発表を聞いて、様々な本に興味をもち、読書への意欲が高まる。 (観察・ワークシート)</p>

VI 本時の展開 (本時は全10時間中の4時間目)

1 ねらい

お父さん、お母さんの家族に対する思いをキャラクターシートにまとめることで、ゆみ子は両親の深い愛情を受けて明るい少女に成長していったことに気付かせる。

2 準備

キャラクターシート・付箋紙

3 展開

学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目 (評価方法)
○ 全文を読む。	5分	・前時に学習した1の場面、2の場面のゆみ子・お父さん・お母さんの人物像を思い起こしながら読ませる。	<p>【読むこと】 〈B規準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんのゆみ子への思いやお母さんのお父さんへの思いを読み取り、キャラクターシートに記入している。 <p>〈A規準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一つの花」と重ねたお父さんのゆみ子への思いや、お母さんのお父さんへの思いを読み取り、キャラクターシートに記入している。 <p>(キャラクターシート)</p>
○ 本時の学習を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">お父さんのゆみ子への思いやお母さんのお父さんへの思いを考えよう。</div>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・人物像を想像したら、その都度キャラクターシートに書き込ませていく。 ・その際、人物像が分かる文を本文から付箋紙に書き抜いてキャラクターシートに貼らせる。 	
○ 3の場面を読む。 ①お父さんへのお母さんの思いやりを感じる場面を探す。 「お母さんがゆみ子を一生けんめいあやしている。」 「お父さんのために大事なお米でおにぎりを作った。」 ②ゆみ子へのお父さんの思いが分かる場面を探す。 「自分のおにぎりをみんなゆみ子にあげた。」	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆみ子が泣かないように一生懸命あやすお母さんの気持ちや「大事なお米で作ったおにぎり」について考えさせる。 ・「大事なお米」と「全部あげた」に着目させて父親の気持ちを考えさせる。 	

<p>○ 4の場面を読む。</p> <p>①ゆみ子の幼さが分かる場面を探す。 「一輪の花にキャッキョッと足をばたつかせてよろこんだところ。」</p> <p>②「一つだけの花」に託したお父さんの気持ちを想像する。 「もうあげる物はないから、せめて花をゆみ子にあげた。」 「最後のプレゼントになるかも知れない。」</p> <p>○ 5の場面を読む。</p> <p>①場面の情景を想像する。</p> <p>②幼かったゆみ子が10年間でどのように成長してきたのか考える。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一輪の花でも喜ぶゆみ子がどのくらい幼い子なのか、自分の経験から想像させる。 ・花は「どんな場所に」「どのように」咲いていたのかを考えさせて、お父さんの一輪の花に込められた気持ちを考えさせる。 ・お父さんはどうしてにっこり笑ったのか、ゆみ子の喜ぶ姿から想像させる。 ・4の場面の「一つだけのコスモス」と5の場面の「いっぱいのコスモス」を比較させて、平和に暮らしているゆみ子とお母さんを想像させる。 ・顔も覚えていないお父さんは、ゆみ子の10年間の成長にどんな影響を与えたのかを想像させる。 	<p>【読むこと】</p> <p>〈B規準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱいのコスモスが平和な生活や明るい子に成長したゆみ子を象徴していることに気付く。 <p>〈A規準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱいのコスモスはお父さんのゆみ子への愛情であり、明るい子に成長したゆみ子を象徴していることに気付く。 <p>(キャラクターシート)</p>
<p>○ ゆみ子の人物像をキャラクターシートにまとめる。</p>	<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆみ子の成長に両親がどのようにかかわってきたのかが分かるキャラクターシートを作らせる。 	

国語科学習指導案

平成21年10月22日（木）第2校時
3年3組 指導者 中畑 真美

授業の視点

作品の主題をまとめる学習において、「作者との架空対談集」を作成したことは、作品の主題に迫り、作品に対する自分の考えを深め、人間や社会に対する意見をもつために有効であったか。

I 目指す言語能力

- 文章を読んで、書き手の意図と表現の仕方とのかかわりを考えることにより、人間や社会などについて自分の意見をもつ。(C読むこと エ)
- 目的に応じて本を読み、書き手と自分のものの見方や考え方を対比させたり、自分の考えを深めたりする。(C読むこと オ)

II 単元名 本を通して、自分の考えを深める
「故郷」 『作者との架空対談集』を作成しよう

III 単元の考察

1 生徒の実態

生徒たちはこれまでに、文学的文章において、登場人物の言葉や動作から人柄や心情をとらえたり、人間の考え方や生き方について読み取り、自分の立場に置き換えて考えたりする学習を行ってきた。また読書指導として、読書記録や読書感想文を書く活動を行ってきた。このような学習を通して、文学的文章の読み取り方を学んだり、表現の仕方や文章の特徴を自分の表現に取り入れたりすることができるようになってきている。

しかし、生徒の読書傾向についてはあまり変化が見られていない。これまでの生徒の読書は、自分の興味・関心のある本や、好きな本を読むというものであった。学校図書館を利用する生徒も限られており、貸し出される本も、非常に狭いジャンルに偏っている。そんな生徒の読書の幅を広げようと、これまでも授業の中で読書指導を行ってきた。しかし、戦争教材の学習後に戦争をテーマにした本を紹介するなど、教材の内容と関連させた読書指導であり、授業で身に付けた力を生かすという視点で関連させたものではなかった。そのことが、生徒に授業と普段の読書が切り離されたものと思わせ、読書の広がりや妨げてきたのだと考えられる。

生徒へのアンケートからも、そのような読書傾向が浮かび上がってきた。「国語の授業のあと、学習したことに興味をわいて本を読んでみたことがあるか」という質問に対して、「ある」と答えた生徒が30名中8名、「興味はもったがそこまではしていない」が11名、「ない」が10名であった。この結果から、興味はもっても自主的な読書に結び付いていない現状がうかがえる。また、「学校図書館にどれくらい足を運んでいるか」という質問に対しては、「ほぼ毎日」が1名、「週に何回か」が6名、「ほとんど行かない」が23名という結果であった。学校図書館に足を運ぶと答えた生徒でも、本を借りるために学校図書館に行くと答えた生徒は、わずか1名であった。また、「入学してから今までに、学校図書館で何冊本を借りたか」という質問に対しては、「ほとんど借りていない」と答えた生徒が23名を占めた。このことから、学校図書館が、多様な本がいつでも手に取れる環境を整えているものの、多くの生徒の学びの場になっていないという現状が見えてくる。

このような実態から、今までのような読書指導ではなく、読むことの学習を生かした新たな読書単元を設定する必要があることが分かった。そこで、授業で身に付けた文学的文章の読み方が、自分の読書にも活用できることが実感できれば、生徒の読書量や読書の傾向にも変化が表れてくるのではないかと考え、「故郷」と読書活動を結び付けた学習を一つの単元として、設定することとした。

2 教材観

「故郷」は、中国近代文学の父と呼ばれる魯迅の作品である。20年ぶりの帰郷で見た風景や、人々との出会いによって、希望から失望へ、失望から絶望へ、そして絶望から新たな希望へと変化していく主人公「わたし」の心情を描いている。この作品は、混迷した1900年前後の中国の時代的・社会的背景を抜きにして考えることは難しい。状況が厳しく変化する中で生きる登場人物の姿は、大変鮮明である。皆、現実社会の理不尽な重圧の中で自分の生き方を変えざるを得なくなった者たちである。当然、それに伴い人間関係も変化する。昔の懐かしい思い出と、変わり果てた現実とをからませることで、読み手にその変貌の原因を考えさせずにはおかない仕組みになっている。

作者「魯迅」は、もともと富裕な地主の家に生まれたが、不幸が重なり没落。清朝末の混乱の時代に、21歳で医師を志し日本に留学した。ここで、ロシアのスパイとして日本人に処刑される中国人とそれを喝采して見物している中国人の様子を映した幻燈を見て、「中国国民を救うのは医学ではなく、精神の改造にある」として文学に転じた。魯迅の思想は「圧迫という関係そのものを除かなければ、この世に真の自由は実現しない」という考え方である。このような思想から、魯迅は生涯を通じて強権と不正に対して、あくまで抵抗し続けた。これが魯迅の文学であり、この魯迅文学を通じて、中国は新しい精神をうち立てたとも言える。

「故郷」には、作品全体を通して、このような魯迅のものの見方や考え方が色濃く反映されている。作品そのものも効果的な登場人物の設定や、見事な故郷の情景描写などにより、イメージ豊かに読み進めることができるが、魯迅の思想や願いを理解した上で作品に触れることで、より深く主題を読み取ることができるはずである。

本単元は、「故郷」を文学的文章の一つとして学習した後、授業で学んだ読むことの力を自分の読書に生かすという、新たな読書単元として設定する。生徒に、国語科の授業で学習した「作品の読み方」が、自分自身が読書する時にも活用できることを実感させたい。「故郷」という作品は、時代背景や作者についての理解をもって読むことで、より深く主題に迫れる作品である。こうした読書の方法は、社会に目を向けつつある中学3年生の生徒たちに、新たな読書の世界をもたらしてくれるだろう。そこで、本単元では「作者との架空対談集」を作成するという活動を取り入れる。「故郷」同様、作者のものの見方や考え方が強く表れた作品を自ら選んで読み、作者の意図が作品にどう反映されているかを対談集の形でまとめていく。対談は、相手の考えや思いを聞き取るインタビューとは異なり、自分の考えも相手に伝えることになる。こうした対談の形でまとめることは、作品のより深い読み取りや、自分の意見や考えを深めることにつながるはずである。また、対談集を互いに読み合って交流することで、生徒それぞれの読書を共有させたい。そこから読書への興味・関心が広がり、今まで触れることのなかったジャンルの本も読むようになってくれればと願っている。

3 教材の系統

	「C読むこと」 読書と情報活用に関する指導事項	単元及び教材	具体的な読書指導
1年	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。	必要な情報をとらえ、説明文のしくみを考える 「クジラたちの声」	要約や文章構成を基に、説明文を構成する。
2年	オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	筆者の意見をとらえ、説得力のある表現を学ぶ 「根拠を明らかにして書こう」	複数の本の資料を基に、意見文を書く。
3年	オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。	本を通して、自分の考えを深める 「故郷」	作者との架空対談集を作成する。

4 指導方針

- ・「故郷」という作品を単独の教材として取り扱うのではなく、「故郷」と「作者との架空対談集」作成とを組み合わせた読書単元として構想する。
- ・「故郷」について作者や時代背景を詳しく知ること、より深く主題に迫ることができることを実感させるようにする。そのために、「架空対談」という形でまとめを行う。その後この学習で身に付けた力を自分の読書にも活用できるように、生徒一人一人が選んだ小説や詩などを基に「作者との架空対談集」を作成させる。
- ・「故郷」の「架空対談」を作る際には、まず対談の形を確認するために、全体で見本を作成する。また、「質問」「魯迅の答え」「それに対する自分の考え」を付箋紙に記入させることで、順序を変えたり、書き直したりすることが簡単にできるようにする。
- ・「故郷」同様に、作者のものの見方・考え方が作品全体に強く表れている本を選ぶ際には、学校図書館を利用する。学校図書館が、授業と関連させて使われるようにすることも、大きな目的の一つである。生徒が本を選びやすいように、関連するコーナーを設けるなど、意図的な図書の配架を工夫する。
- ・「故郷」の学習を生かして「架空対談集」を作成させる際には、「故郷」のまとめで作成した「架空対談」をもう一度読み返し、作り方を確認させる。また、自分が作者に言いたいことをはっきりもたせてから、質問や答えを考えさせる。
- ・できあがった「作者との架空対談集」を交流する際には、単に作品の仕上がりを評価するだけでなく、「より作品に対する興味をもてたか」という観点で相互評価させる。

IV 目標及び評価規準

1 目標

物語を読んで、作者の意図やそこに表れているものの見方・考え方から、人間や社会について自分の意見をもつとともに、時代背景や作者の人物像から作品について読みを深めていくといった新しい読書の仕方に気付き、作者の意図を考えたり自分の考えを深めたりしながら読書しようとする態度を育てる。

2 評価規準

	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
関心・意欲・態度	・時代背景や作者の人物像から作品について読みを深めていくといった新しい読書の仕方に気づき、作者の意図を考えたり自分の考えを深めたりしながら読書しようとしている。	・時代背景や作者の人物像から作品について読みを深めていくといった新しい読書の仕方に気づき、それを自分の読書にも生かして、作者の意図を考えたり自分の考えを深めたりしながら読書しようとしている。
読むこと	・作者の意図やそこに表れているものの見方・考え方をふまえて物語を読み、人間や社会について自分の意見をもつことができる。	・作者の意図やそこに表れているものの見方・考え方をふまえて物語を読み、それを物語の読解に役立て、自分の考えを深めたり社会や人間に対して意見をもったりすることができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・語句や表現の効果的な使い方に着目し、語彙を広げることができる。	・語句や表現の効果的な使い方に着目し、日常の言語活動を振り返ったり語彙を広げたりすることができる。

V 指導と評価の計画（全10時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目（評価方法）
1	・全文を通読し、物語の全体構造をつかむ。	・物語の全体構造をつかむために、「わたし」の心情が分かる部分に線を引きながら通読させる。	【関心・意欲・態度】 B：物語のあらすじと、主人公の心情をつかもうとしている。 A：物語の構造と、主人公の心情の変化をつかもうとしている。（観察）
2	・物語の「始まり」と「終わり」を比較し、作品の最後に書かれている作者のメッセージに気付く。 〔ワークシート No.1〕	・物語のあらすじを確認し、「始まり」と「終わり」の文章に書かれた主人公の心情を比較することで、失望から希望へという変化をとらえさせる。 ・「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」という言葉について話し合い、これが、作者魯迅のメッセージであることをとらえさせる。	【読む】 B：主人公の心情の変化に気づき、最後のセリフに込められた思いを考えている。 A：主人公の心情の変化やそれを表すキーワードをとらえ、最後のセリフとのつながりを考えている。（観察・ワークシート）

3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」「ルントウ」「ヤンおばさん」の20年前と現在を比較し、3人が20年間にたどってきた道について考える。 ・当時の中国の様子について、歴史の資料集などを使って調べる。 [ワークシート No.2・3] 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でとらえた主人公の心情の変化が、20年間の生活によるものであることを、叙述に即してとらえさせる。 ・20年前と変化しているのは「わたし」だけではないことをとらえさせるために、「ルントウ」と「ヤンおばさん」についても同様に比較させる。 ・当時の中国の社会状況について調べ、後の「架空対談」作成のための一助とする。 	<p>【読む】</p> <p>B：状況や時代背景も考えながら登場人物の変化を読み取り、3人の登場人物の変化と当時の中国の社会状況とが関連していることを理解している。</p> <p>A：状況や時代背景も考えながら登場人物の変化を読み取り、3人の登場人物が当時の中国国民を代表する人物として書かれていることを理解している。 (ワークシート・発言)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と「ルントウ」の再会の場面から、「わたし」が抱いた「希望」について考える。 ・作者魯迅について、資料集などを使って調べる。 [ワークシート No.4・5] 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」が味わった絶望感を「ルントウ」と再会した時の会話や心情の描写からとらえさせる。 ・絶望から希望をもつまでに至った「わたし」の心情の変化を、「ホンル」と「シュイション」の様子からとらえさせる。 ・魯迅について調べることで、最後のセリフに込められた魯迅の思いに迫らせる。 	<p>【読む】</p> <p>B：魯迅の思想や考え方が、この物語に色濃く反映されていることを理解している。</p> <p>A：「わたし」の心情を読み取り、そこに魯迅の思想や考え方が反映されていることを理解するとともに、そのことに対して自分なりの考えをもっている。 (ワークシート・発言)</p>
6 (本 時)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにつかんだ「故郷」の主題を、作者魯迅との「架空対談」の形でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対談の形式にすることの良さをおさえ、自分の考えをはっきりもたせた上で、質問や答えを考えさせる。 ・既習のワークシートを見直し、作者魯迅や時代背景について確認させる。 ・個別学習では困難な生徒もいることを考慮し、最初の見本作成の際、グループ学習を取り入れる。 	<p>【読む】</p> <p>B：時代背景や作者について調べたことをふまえて、読み取ったことや自分が考えたことを作品の主題にかかわる対談としてまとめている。</p> <p>A：時代背景や作者について調べたことを関連させながら、社会や人間について自分が考えたことや意見を作品の主題にかかわる対談としてまとめている。 (ワークシート)</p>

7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を利用し、「故郷」同様に作者のものの見方・考え方が作品全体に強く表れている本を選び、読む。 ・選んだ作者について、調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成した対談集を提示し、このような形でまとめることで、作品の主題により深く迫れることを確認する。 ・最近の作家では、調べるのに資料が不足していると思われるので、ジャンルを詩や短歌・俳句などに広げてよいことを助言する。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>B：自分の興味・関心のある作家の本を探し、読もうとしている。</p> <p>A：作者の意図が分かるという視点で本を選び、積極的に読もうとしている。 (観察)</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・「作者との架空対談集」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「故郷」のまとめで作成した「架空対談」をもう一度読み、作り方を再度確認する。 ・自分が作者に言いたいことを明確にもたせ、それを基に質問や答えを考えさせる。 	<p>【読む】</p> <p>B：作者の意図を視点に、主題に迫る質問や答えを考えている。</p> <p>A：作者の立場に立って、作品について考えたり読み取ったりしたことを、自分の考えも加えながらまとめている。 (ワークシート)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品を、友達と交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「より作品に対する興味ももてたか」という観点をあらかじめもたせてからグループで読み合い、相互評価させる。 	<p>【書く】</p> <p>B：友達の作品を、積極的に評価している。</p> <p>A：友達の作品を、積極的に評価しようとするとともに、自分の考えをもっている。 (ワークシート)</p>

VI 本時の展開 (本時は全10時間中の6時間目)

1 ねらい

時代背景や作者の人物像を視点にしながら読み深めた「故郷」の主題を、作者魯迅と自分との「架空対談」の形でまとめる。

2 準備・資料

教科書、ワークシート、既習のワークシート

3 展開

学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目（評価方法）
○ 本時の課題を確認する。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、「故郷」の主題により深く迫るために、作者魯迅との「架空対談」を作成することを知らせる。 	
○ 対談の形とはどのようなものかという見本を、全体で作る。	12分	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューとの相違点を考えさせることで、対談とはどのようなものかイメージできるようにさせる。 ・対談にふさわしい質問や、答えに対する自分の考えの示し方を、生徒が書きやすいようにパターン化したものを提示する。（質問→魯迅の答え→それに対する自分の考え） ・既習のワークシートを見直し、魯迅について思い出させる。 	
○ 質問とその答え、それに対する自分の考えをセットにし、付箋紙に書き込む。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・対談の話題となる材料をいくつかに絞り、提示するとともに、個別学習では困難な生徒がいることを考慮し、「質問→答え」のセット作りまではグループで行わせる。 ・グループ学習では、まず全員が1セット作成し、最も良いものを班で選ばせる。 ・グループで作成した「質問→答え」のセットを基に、自分の考えを付け加えたり、答えを受けて二次発問を作ったりする活動は、各個人で行わせる。 ・順序を変えたり、書き直したりすることが簡単にできるように、付箋紙に書かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【努力を要する状況の生徒への手だて】 グループで作成したセットを基本に、魯迅の答えに対する自分の考えを付け加えさせる。</p> <p>【概ね満足できると判断される状況の生徒への手だて】 魯迅の答えに対して、自分の考えだけでなく、答えを受けての二次発問を考えさせたり、対談にふさわしい言葉遣いを工夫させたりする。</p> </div>	<p>【読むこと】 〈B基準〉 時代背景や作者について調べたことをふまえて、読み取ったことや自分が考えたことを作品の主題にかかわる対談としてまとめている。</p> <p>〈A基準〉 時代背景や作者について調べたことを関連させながら、社会や人間について自分が考えたことや意見を作品の主題にかかわる対談としてまとめている。 (ワークシート)</p>

<p>○ 記入した付箋紙を読み直し、順番を変えて貼り直しながら対談の形にまとめていく。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙を自由に貼り替えることによって、対談の形に近づくようにさせる。 ・清書することはせず、付箋紙を貼った形でまとめとすることを知らせるとともに、次時に良くできた作品を紹介することを知らせ、見やすいまとめ方を工夫させる。 	
<p>○ 学習を振り返り、次時の予告を聞く。</p>	<p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時からは「故郷」の学習を生かして、同様に作者のものもの見方や考え方が作品に強く表れている本を探して読み、「架空対談集」を作成していくことを知らせる。 	